

令和2年8月31日



9月 釜小だよ

横浜市立釜利谷小学校

釜小We b <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamariya/>



受け継ぎ 支える

副校長 鈴木 勝之

内山節さんという哲学者が書いた記事を読みました。奈良の法隆寺に関する話です。法隆寺は今から1300年以上前に建てられた世界最古の木造建築です。内山さんは記事の中で、法隆寺のすごさを三つ挙げています。一つめは使われている木材の寿命の長さ、二つめは今日まで受け継がれる宮大工さんの技術、三つめはそれらを受け継ぎ支える人々の存在です。

現代の鉄筋コンクリートの建物の寿命は上手に使っても100年くらいで、それに比べて法隆寺に使われる木材の寿命はとても長く2000年以上のものもあるそうです。その修理法は、建物を一度バラバラに分解し、木材を取り換えたり壁を塗り直したりして、もう一度組み立て直すというもので、飛鳥時代の技術が今もしっかりと受け継がれているのだそうです。さらに内山さんは、その技術を受け継ぎ、法隆寺をお寺として使い続け、支えてきた人々の存在を重要視して、話の所々でその存在に驚き、感動していました。最後に、これらが法隆寺の長い歴史を支えているのだという考えで話をまとめていました。



この記事を読んで、学校も似ているところがあると感じました。それは、人々が受け継ぎ、支えていくということです。釜利谷小学校の147年という長い歴史の中には、様々な要因による変化があったことでしょう。学校教育ですから、学習指導要領が示す理念や方向性、学校教育目標等に基づいて教育活動を行う必要がありますし、少しずつ教育活動の内容そのものを見直して修正する場面もあります。しかし、その中であっても大きく変わらずに受け継がれてきた何かがあるのではないのでしょうか。それはきっと、在籍していた子どもたち、支えてくださった保護者や地域の方々、働いていた職員が築き上げた風土、雰囲気といった文化のようなものなのかもしれません。よさと言い換えることもできそうです。

今の釜利谷小学校は、その文化やよさを受け継いできた人々の支えによって成り立っています。そこで日々の生活を送るわたしたちは、今に残る釜利谷小学校の文化やよさをしっかりと受け継いで、釜利谷小学校とその歴史を支えていきたいと思えます。